※書写山（書寫山圓教寺）　　「伝説の始まり」

姫路北西部に位置する「書写山圓教寺」。
ここは平安時代（966年）性空上人によって開かれたという古刹です。
圓教寺境内には重要文化財も多く、今も手つかずの自然が美しく残されるスポットです。
圓教寺は千年の法灯を守り続けている地ですが、ここは全国から多くの僧侶が集まる修行の地でもありました。その中には彼の有名な「**武蔵坊弁慶**」も修行を行っていたと伝えられてい

比叡山にいた弁慶は、乱暴が過ぎて追い出されてしまい、その後弁慶は書写山へ入山したと言います。そしてこの地で人生の転機となる事件が起こります。
この事件の顛末は、源義経の生涯を記した「義経記（ぎけいき）」の中で伝えられています。

比叡山を降りた弁慶は、性空上人を慕って多くの修行僧の1人として書写山へ登り修行に励みます
その時の弁慶を見た衆徒は、「見た目と違って穏やかな人である」と褒め称えたと言います。
ある日弁慶が昼寝をしていると、悪僧である信濃坊戒円（かいえん）が、弁慶の顔に「弁慶は平足駄とぞなりにけり、面を踏めども起きも上らず」と落書きをします。
周囲の者達が大笑いをする中、何の事だかさっぱりわからず、近くの井戸で顔を映した弁慶は初めて顔の落書きの事を知ります。
恥をかかされた弁慶は烈火のごとく怒りだし、それに対し戒円は楾（くぬぎ）の燃えさしで弁慶に打ちかかります。怪力であった弁慶は、そのまま戒円を抱え上げ、講堂の屋根へ放り投げられてしまいます。その時戒円の楾の燃えさしが講堂の軒に挟まり、谷からの風に煽られ、講堂他の54伽藍の全てが炎上し焼け落ちてしまいます。
事件を起こした弁慶は「寺を焼いたのはこの弁慶でござる。再建するのも弁慶が仕る。ただし再建の為の財を持っておりませぬ。それ故に**太刀を千本奪い取って、釘の代金として差し上げます**」と仏に誓ったと言います。

この後に、弁慶は侍から太刀を奪い歩き、999本を手に入れる事になります。
そして最後の1本となったその時に、京の五条大橋で**牛若丸（源義経）と運命の出会いを果たすことになるのです**。
この書写山での出来事がきっかけとなり、あの有名な五条大橋での伝説に繋がっていくのです。

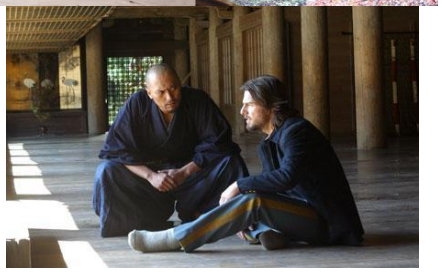
一般的に弁慶は、乱暴者で喧嘩の絶えなかった荒法師と言われますが、「義経記」によれば比叡山の修行においても「人に勝り、学問は世を越えて器用なり」とあります。また、書写山においても真面目に修行を終え、学頭に

対して暇(いとま)の挨拶へ行くほどに律義な弁慶の姿が書かれています。
どうやら弁慶は、普段真面目で礼儀正しいものの、一度切れてしまうと止まらなくなる性格の人物だったのかもしれません。

書写山の史料には、「天神名号　武蔵坊弁慶筆」などの記載があり、
太刀や長刀を奉納したとあるそうです。
また、「弁慶の机」と伝わる物も残されており、弁慶はこの大きな机を小脇に抱え持ち歩いたと言います。この弁慶の机を巡っては、いつの頃か近所の子供たちがこの机の端を小刀で削り、「頭が良くなる」といってお守りにしていたと言われており、机を見ると角が取れて丸くなっていたり、多くの傷も見受けられます。
気が優しくて力持ち、賢くて豪快な弁慶は、当時から子供たちのヒーローだったのかもしれませんね。

書写山圓教寺の奥の院には、性空上人を祀っている「開山堂」があります。
その軒下には開山堂の屋根の重みを必死の形相で支える「力士像」があり、この像は名工・左甚五郎の作と伝えられています。(代表作:日光東照宮「眠り猫」など)
しかしこの力士像、なぜか北西の隅だけには象がありません。
この場所の説明板では「力士が余りの重さに耐えかねて逃げ出したという伝説がある」となっており、文化庁の資料にも「北西を除くき、隅木下に力士像を据えている」と簡単に書かれており、重要文化財にも指定されている開山寺ですが、この力士像の不思議は未だに謎のままとなっています。

そして圓教寺といえば、最近映画やドラマなどのロケ地としても有名になりました。
映画「ラストサムライ」では、トムクルーズさんと渡辺謙さんが挨拶を交わすシーン。
このシーンは円教寺の常行堂で撮影されたそうです。
また、この寺には樹齢700年の杉があり、その杉をかたどったバームクーヘンが販売されてますが、トムクルーズはこのバームクーヘンを気に入り、50箱も買っていったそうです。



その他、大河ドラマ「軍師官兵衛」「武蔵-MUSASHI-」や、映画「天地明察」「源氏物語 千年の謎」など数々のロケ地として使われたようです。